

NAURU ナウル共和国

まだ知らない、だけど、もっと知りたくなる、貴重なリン鉱石の島

ナウルは東京とオークランド(ニュージーランド)のほぼ中間に位置している、一周19kmの島国です。その面積は東京都品川区と同じくらいの広さ。かつては肥料や工業原料の原料となるリン鉱石の採掘地として有名で、中央部はリン鉱石の台地が広がっていましたが、今はその大部分が採掘された跡地になっています。

日本と関わりが薄い印象を受ける国ですが、太平洋戦争時にナウルは旧日本軍により占領されたという歴史があります。旧日本軍により1200名のナウル人がトラック島(現ミクロネシア連邦チューク)での労働力として強制移送が行われたという悲しい歴史もあります。今でも現地には当時を物語る大砲やバンカーが残っています。

ナウルは海岸近くで水深2000mに達するため、キハダマグロやカジキなどの大型魚が豊富です。ここでのゲームフィッシングは格別。ナウルの美しい海と豊かな漁場で、太平洋の魅力を存分に楽しんでください!

ナウルを訪れる日本人はまだ年間数名程度、ナウルに行ったという経験自体がユニークなものです。太平洋の島々のアイランドホッピングを検討されているあなた、レア度が高いナウルを訪問してみませんか?



渡航経路例
成田⇒プリズベン(オーストラリア)⇒ヤレン(ナウル)

Step 1 ナウルにはどうやっていくの? フライトを予約しよう!

ナウルに行くためには国営のエアライン、ナウル航空を使う必要があります。以前は日本の鹿児島や那覇空港にも定期便がありましたが、現在ではナウル・日本間の直行便はありません。現在は、オーストラリアのアリスベンをはじめ、ナンディ(フィジー)、コロール(パラオ)、タラワ(キリバス)、ボンベイ(ミクロネシア連邦)、マジュロ(マーシャル諸島)などの区間を就航しており、他の島に立ち寄るアイランドホッピングも可能です!最新のフライトスケジュールはナウル航空のウェブサイトを確認しましょう。

初級モデルコース こじんまりとした島ナウルでのんびり過ごそう!

1日目
AM ● オーストラリアのアリスベンからナウルへ到着
早朝に到着するのではホテルで疲れを取ろう
ココナッツミルクとシーフードが特徴のナウルの料理をランチで楽しもう
ココナッツドリンクも忘れずに
PM ● 午後はナウルで一番景色が美しいと言われる海岸、アニバレ湾へ
白いビーチで海水浴を楽しんだり、ゆったりとした時間を過ごそう

2日目
AM ● 地元のガイドさんと共に島をぐるりと回るツアー!主要な観光サイトを解説と共に巡ろう!
・アニバレ湾やブアダ・ラグーンで美しい自然を体験!
・第二次世界大戦のメモリアル・モニュメントや当時の大砲跡地で歴史に思いをはせる
・国会議事堂などで現在のナウルについて知ろう
PM ● ランチの後、シビックセンターでお買い物
リン鉱石やココナッツで作ったナウルならではのお土産を見つけてみよう

3日目
AM ● ナウルの初期のリン鉱石採掘場を訪問できるツアーへ!
ナウルを支えた主要産業の歴史について知ろう
空港近くのレストランでランチをとった後、空港内の土産物屋へ
PM ● 夕方の便でプリズベンへ

Step 2 ナウルでの滞在は?ホテルを予約しよう!

ナウルの国土面積は約20km²、これは東京都品川区とほぼ同じ広さです。世界でも小さい国の上位に入るナウル、ホテルの数もまだまだ多くはありません。ナウル観光局のウェブサイトでは、国営ホテルを含む4つのホテルが紹介されています。写真や設備も紹介されているので、ぜひ気になるホテルを探してみましょう!

Step 3 ナウルに行く前にビザの取得を忘れずに!

日本からナウルに訪問する場合、外交旅券・公用旅券を除き、事前にビザを取得する必要があります。観光で訪問する場合は、一般バスポートで渡航することになるので、必ず手続きを忘れないようにしましょう。詳しくはナウル観光局のウェブサイトでも最新情報を必ずチェックしましょう
<https://naurutourism.com.nr/>

中級モデルコース ナウルをまるごと楽しもう! ゲームフィッシングでアドベンチャー体験も!

1日目
AM ● フィジーのナンディから早朝に到着。まずはホテルで疲れを取ろう
PM ● 午後はナウルで一番景色が美しいと言われる海岸、アニバレ湾へ

2日目
All day ● 地元のガイドさんと共に島をぐるりと回るツアー!主要な観光サイトを解説と共に巡ろう!

3日目~4日目
All day ● 大物が釣れるかも?経験豊富なプロのクルーとゲームフィッシングを楽しもう!1年中釣りを楽しめるナウルでは、カジキやキハダマグロなど大物が釣れることも

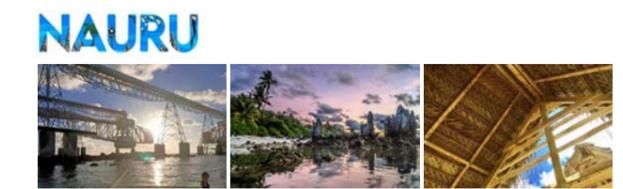
5日目
All day ● ナウルのリン鉱石採掘場跡地を訪問できるツアーへ!
ナウルの歴史を感じよう

6日目
All day ● 洞窟ツアーで自然の中をハイキング!海を見下ろす旧日本軍のバンカーなども見学できる

7日目
AM ● ナウルを出発する前にアニバレ湾で美しい景色を眺めながら「なにもしない」贅沢な時間を過ごそう
PM ● 空港近くのレストランでランチをとった後、空港で最後の土産物を探そう
夜の便でナウルからナンディに向けて出発

オンラインコンテンツを楽しもう

さらにナウルの情報を知りたい方はナウル政府観光局のウェブサイト(英語)にアクセス!現地でのアクティビティやホテル情報、VISA取得方法の詳細を確認することができます。



Q ナウルは国土面積約20km²と、このパンフレットで紹介している太平洋島15国の中で最も小さい国ですが、2番目に国土面積が小さい国はどこでしょう?

A 答えは p.40 に!

コラム 1 世界随一の富裕国だったナウルーリン鉱石産業の盛衰

ナウルの主要産業であるリン鉱石産業ーリン鉱石とは肥料の原料となる貴重な鉱石でナウルではサンゴ礁の上に何百万年もの間にわたって堆積した海鳥のフンが長い時間をかけて、リン鉱石に変化しました。このリン鉱石は1890年代後半にナウルで発見され、1900年代に本格的に採掘が始まるようになります。第二次世界大戦後に独立を果たし、リン鉱石採掘による莫大な収入が得られるようになると、1980年代には国民1人当たりのGNP(国民総生産)は日本やアメリカを上回る状態に。税金、医療費、学費なども無料になり、国民の多くが働く必要がない状態になりましたが、リン鉱石の枯渇により国家財政が悪化、新たな産業が模索されています。

コラム 2 実は深い日本との歴史

日本との関係が薄いように思えるナウルですが、実は歴史的に関係が深いです。太平洋戦争勃発直後の1941年12月から、旧日本軍はナウルへの爆撃を開始し、1942年8月にはナウルを占拠しました。このことから、ナウルには今も当時の旧日本軍の大砲やバンカーが各地に残されています。戦時中は旧日本軍により1200名のナウル人がトラック島(現ミクロネシア連邦チューク)に労働力として強制移送されるという事態も。こうした歴史的背景もナウルを訪れる際は心に留めておいたほうが良いでしょう。

ナウルに訪問する Step 3